

## R2.6.20 時期地区役員会議 GLT 説明資料

GLT 副委員長 本多弘毅

### 1 導入

#### (1) 自己紹介

みなさん、こんにちは。次年度地区 GLT 副委員長を仰せつかった鹿児島ライオンズクラブの本多と申します。どうぞよろしく申し上げます。

#### (2) GLT とは

私からは、GLT、すなわち「グローバル指導力育成チーム」について次期役員の皆さまに必要な情報をお届けし、併せて次期のクラブにおける活動のお願いが出来ればと思っております。

さて、GLT が「グローバル指導力育成チーム」の略称であることは今お話ししたとおりです。これを聞くと、要はこれからのライオンズクラブを担っていくリーダーを養成していきたい、というざっくりな目的は分かるものの、じゃあどうすれば良いのかという部分については今一ピンとこないという方が大半なのではないでしょうか。実は私自身、ライオンズクラブへの入会から 6 年程度しか経っておらず、クラブ幹事は経験させて貰ったもののクラブ会長は未経験となりますし、会社も従業員が 2 名しかいない零細企業となりますので、クラブの活動においても、日々の実務においても、新しいリーダーの育成という大それたことを大上段から言えるような知識も経験も持ち合わせていないというのが正直なところとなります。

他方、若手の立場から、各クラブが会員減少傾向にあり、特に、私と同年代の 30 代、40 代の新しい会員がなかなか増えていかない現状に接し、自分がいずれはクラブ会長などの重責を担っていくであろう将来のライオンズクラブはなかなかこれまで通りにはいかないのではないか、という危惧も感じていたところ、寿浦エレクトより次期 GLT 副委員長の任を仰せつかったところとなります。私なりに、寿浦エレクトは私に対し、若手がライオンズ活動にこれまで以上に遣り甲斐を感じ、ライオンとして成長していくため、若手から見たライオンズクラブにおける今後のリーダー養成に関して考えて欲しいということだと解釈しております。そこで、ここからは、若手である私から、こんな

ライオンズクラブであればもっと若手も楽しく、のびのび成長できるのではないかと、ということを僭越ながらお話しさせていただきます。

## 2 指導力の育成

ライオンズクラブにおけるモットーは「We Serve」です。独力ではなく集団の力で奉仕をするのがライオンズクラブとなりますので、ライオンズクラブにおけるリーダーの育成といった場合、特定の人物をリーダー候補者に選定し、帝王学を授けるというのは少し違うと考えています。ライオンズクラブにおいては、ライオン誰もが奉仕者としての自覚を持ち、リーダーとして振る舞える…こういった形がやはり最も望ましいのではないのでしょうか。

それでは、どうすればクラブ会員、更に言えば若手がこのような自覚を持てるのでしょうか。

私なりに色々と考え、また、過去の GLT 関連の資料も読んで検討しましたが、なかなかこれといった一発解決の名案はありません。当たり前です。

それでも今日のこの場で皆さまに GLT に関してお話ししないといけないということでしたので、色々悩んでいたところ、1つの言葉が頭に浮かびました。皆さまもご存知だと思いますが、連合艦隊司令長官、山本五十六の言葉です。

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」です。

私は、ライオンズクラブにおけるリーダー育成は、正にこの言葉のとおりではないかと考えています。

すなわち、まず、「やってみせ」。これは先輩である皆さま自身がまずは奉仕を行い、感動をすること、これが今後のリーダー育成の第一歩に繋がると思っています。ライオンズクラブは単なる飲み会とは異なります。単なる飲み会に年間数十万円もかかる会費を支払う人はいないはずですが、やはり、奉仕による感動や充実感こそ、ライオンズクラブが 100 年続いてきた一番の理由だと思います。その意味では、既存のアクティビティーでも、新しいアクティビティーでも、まずはクラブ役員である皆さまが先頭に立って奉仕活動を前向きに行っていただければと考えています。

次に、「言って聞かせて」。ライオンズクラブで言えば研修ということになると思いますが、出来れば、次期は各クラブでメンバースクールを開催して欲しいと考えています。

そのとき、先の「やってみせ」が生きてきます。単なる知識ではなく、皆さまがこれまでに奉仕をやり終えて色々と感動したり充実感を得たりといったプラスの部分、これを教えてあげる形のメンバースクールであれば、これまで奉仕に参加したことが無いという会員も奉仕への興味を持ちやすいのではないのでしょうか。

次に、「させてみせ」。若手の育成という意味では大事な部分です。何でもそうだと思いますが、やはり使い走りだけやらされていては遣り甲斐は感じ難いと思います。その意味では、是非、次期ではアクティビティーに若手会員を引き込み、その方の考えも聞いていただきたいと考えています。そうして終わった時に感動を共有できた場合、その若手はもうライオンズクラブを退会しようなどとは考えないと思います。

最後に、「ほめてやる」。寿浦エレクトから聞いたことがあるのですが、昔の鹿児島ライオンズクラブの先輩は、「ライオンズクラブは人生の練習の場でもある。ライオンズクラブではいくら恥をかいてもかまわない、それを自身の会社に帰って糧とすれば良い」ということをお話しされていたそうです。奉仕の心があれば、ライオンズクラブに失敗は無いと思います。もちろん、段取りが悪かったり、必要以上に時間がかかったりということはあるかもしれませんが、その時も叱るのではなく、上記の言葉をかけて良い所を褒めてあげて貰えればと若手のやる気も上がっていくと思います。

### 3 まとめ

以上、駆け足で取り留めもなく話してしまいましたが、GLTとしてお手伝いできる部分があるとすれば、「言って聞かせて」の研修部分になるのでしょうか。クラブ内で各種研修などを行いたいという場合、色々と参考になりそうな資料などを提供できるかもしれませんが、遠慮なく私までお申し付けいただければと考えています。

最後に、山本五十六の先の言葉には続きがありますので、その言葉をご紹介します。終わりたいと思います。

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」

ありがとうございました。

以 上